

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会の一員として地域の中で暮らしていることを認識して理念を作りました。	○ 日常的に近所と交流、あいさつをしたり、野菜をいただいたり、夏祭りの参加を呼びかけ、お手伝いもしていただいた。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内、スタッフルームに掲示して、日々確認しています。カンファレンスの際にも理念に基づいて検討するように心がけています。	○ 日常の介護について、方向性も理念に基づいていることを職員全員が自覚している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族にはGHだよりや生活記録を月1回郵送して、理解をしてもらっている。運営推進会議の中で地域住民との交流の下、その方らしい暮らしができるよう、説明し、理解が得られるよう努めている	○
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所から野菜や果物をいただいたり、ホームから行事への参加の呼びかけをし交流している。また、地域のボランティアさんも定期的に来所され、気楽にお茶のみに来られています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム主催の行事への参加を地区の自治会長さんをお願いして回覧板や公会堂掲示板へのポスターの掲示で運動会や夏祭り、焼き芋大会などの開催をアピールし、地区の方に参加していただいている。地区のどんど焼きに参加しています。	○ 今後も積極的に進めていきたい。

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運推会議を通じて民生委員から地域で暮らす一人暮らしの高齢者の情報を聞き、ホームとしてできることを協力する体制作りをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で取り組み、機会あるごとに話し合った。地域密着型のサービスということで、職員全体で勉強し、見直しをはかった。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催、ホームの活動報告などを通して、地域の方に理解していただいている。今年度はメンバーが代わったことで新たに1からやり直した内容になったが広く理解していただく目的にはなっていると思う。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員として出席していただいている。夏祭りへの参加や、権利擁護について該当する利用者についてアドバイスをもらったりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	専門研修を受講し、全職員に回覧して学習しているが、身近に実例がないことから周知されていない。	○	全員が知識を持ち、取り組めるように研修の機会などに積極的に学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームの掲示板に掲示して自覚を促している。カンファレンスや勉強会でも日頃の言葉による虐待などないか、いつも振り返りをしている。	○	外部研修の受講、行政からのパンフレットを身近において意識を持って常に学習していきたい。

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は運営規程、約款、重要事項説明書等で十分説明を行い、重度化したり、退居となった場合の時も考慮して、次の生活にスムーズに移行できるよう、丁寧に説明を行い、不安や疑問を聞き、理解と納得を得ている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話や言動から不満や苦情を汲み取るようにしている。又家族には、苦情を言いやすい雰囲気作りに努め、面会時意見を聞くようにしている。意見箱も設置し意見を出し易いように配慮している。月1回あんしん相談員を受け入れ、外部者へ表せる機会をもうけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「グループホームだより」「2Fだより」はユニット全体の様子をお知らせし、「生活記録」は個別にケース記録から書き出して生活の様子をお知らせしている。状態の変化があれば、すぐに個別に連絡している。金銭管理については、預かり金の収支報告を3ヶ月に一度郵送している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に行政等へ苦情の訴えができることを説明している。事務所の入口にご意見箱を設定、入居のときはその説明もしている。また、面会時に苦情や要望なども常に伺うようにしている。苦情受付簿を作成し、各々の苦情の具体的な事例を記録し、管理し、再発防止に役立っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のスタッフ会議の中で、全体の意見を聞き反映できるようにしている。	○ スタッフ一人ひとりが意見を言いやすい環境にするための個別の面談を定期的に行いたい。要望や意見を言いやすい、仕事のしやすい職場環境にしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態に合わせて勤務の変更や超勤ができるように柔軟に対応し、協力体制ができている。職員も理解している。	

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人全体での人事異動や職員採用があり、制約がある。異動は最小限に抑えている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が出来るだけ研修に参加できるように運営者は推進している。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>長野圏域のグループホームネットワークに参加し交流する機会を持っている。他のグループホームを見学し向上させていく努力もしている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人の専門職によるカウンセリングを行って職員の不安、不満を汲み取りストレスを軽減する工夫や環境作りに配慮している。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務の昇給や賞与に関しては勤務実態を評価し支給しており、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の面談を行って話を聞き、本人を理解するように努めている。家族や利用施設職員などからも情報収集をして出来るだけ本人の不安をなくすように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込み時から家族の思いを聞き、本人の思いとの違いを知る。家族の立場に立って傾聴の姿勢を取り、信頼関係に努めている。面会時でもできるだけ機会をつくるようにしている。	○ 家族以外の本人の回りの人からも面会があった時には出来るだけ聞き取れるようにしていく。センター方式でまとめていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の申し込みは随時受け付けているが、他のサービスの内容も説明している。また、満床のときのためにGH長野とも、老健とも連携している。	○ 近くのGHと横のつながりを作り、緊急性のある入居希望者への随時対応できる方法がとれないかと思う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の面接をホームに来ていただき、本人が納得されて入所される場合もあったが、家族の希望でショート利用から入所され信頼関係がなかなか築けない例もあった。なるべく家族の協力のもと、本人の納得できる方法をとるようにしている。	○ 認知の状態、家族の事情も考慮している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活で家族のように寄り添って一緒に生活する仲間として共有するように心がけている。また、本人が活躍できる場面を作っていくように心がけている。高齢者の生活の知恵をスタッフもたくさんいただいている。	

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年数回の家族同伴の行事や家族会で、家族との信頼関係を築いている。面会時にお話する機会をつくり情報や要望を聞き、共に利用者を支援する関係を作っている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にしか出来ないことを理解していただき、スタッフはそれを支援する。また、家族からの情報はスタッフが共有して、家族の思いは全スタッフが理解するようにしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や正月の帰省、買物やなじみの美容院、墓参りなどできるように支援している。	○	家族の理解をお願いし協力してもらっている。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	暮らしの中で築いた人間関係を尊重し見守っているが、相性や認知レベルの違いで孤立する利用者もあり、利用者間のクッションになるようにスタッフは常に心がけている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併施設への入所された方、他施設へ移動された方、いずれも面会に行っている。家族にお会いしたとき様子を聞いたり、家族と年賀状のやり取りをしている。		

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いをくみ取るように努力しており、カンファレンスで検討して、ケアプランに反映している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族も含めての面談や、ご家族や担当ケアマネ訪問調査にて情報収集している。入居時に家族に生活歴の記入や、聞き取り調査を行っている。本人との日常会話の中で生活環境などを聞き、センター方式に反映している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活パターンを把握してそれに添ってケアするようにしている。日々利用者の発する言葉や態度で気づいたことをケア記録に記入して共有し、ケアに生かしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当スタッフが中心になってアセスメントし、家族や本人の意向もくみ取り、ケアプランの作成は全体で行っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後3ヶ月間は毎月、その後は3ヶ月に一度見直しをしているが、対応できない変化が生じたときはそのつど、家族・本人の意向を汲みながら見直ししています。	

グループホームコスモスさいなみ・2階

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の中で発した言葉や様子など気づきをケア記録に記入して、カンファレンスで見直し、利用者の個性をどう生かすか検討している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望により、老健への移動や在宅へむけて居宅事業所の紹介をしている。外出時にデイケアから大型車を借りたり、外来受診時にリフト車を借りたり融通している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の防災訓練は地元消防署、地元消防団の協力で実施している。地元の小学校、保育園、高校と、専門学校生と交流している。	○	ボランティアさんから更に次のボランティアを紹介してもらうこともあり、関係に広がりを見せている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具の利用手配、定期外来受診の同行や受診同行の外部ヘルパーの手配		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運推会議では委員として参加してもらい、地域参加の行事にも参加をお願いしている。権利擁護のアドバイスや指導もしてもらっている。		

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院になった場合、早期に退院できるように医療機関と連携をとりたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後に備えて変化に対応できる事例検討し準備をしたい。

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他事業所（コスモス内外を問わず）に移動の際はアセスメントやケアプラン、近況報告を渡しており、必要に応じて随時情報交換もしている。退所後もスタッフによる面会や必要に応じて家族とも連絡を取っている。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>他利用者の前であからさまな声がけはせず、さり気なく別の場所に移動してその人にあった伝え方で対応している。</p>	<p>○</p> <p>トイレの位置が目につきやすい場所にあるためトイレ介助などの際、他利用者の視線が集中しないように工夫していきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合わせて声がけし、複数の選択肢を提案したり自分で決める場面を作っている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れの中で、体調に配慮しながら散歩や畑仕事をし、柔軟に対応していく。</p>	<p>○</p> <p>母の日、敬老会etc行事の時は前もって話し合いや計画をしっかりと立てて実行しているが、当日はどうしてもあわただしくなってしまう、利用者のペースとずれが生じるため工夫していきたい。</p>
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、支援が必要な利用者にはスタッフが手伝うようにしている。定期的に知合いの美容師さんがメイクやカットのボランティアに来てくださる。また、職員が利用者のヘアカラーもしている。</p>	

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が得意な手作り餃子やコロケ、手打ちうどんなどをメニューに取り入れ、一緒に調理する。一人ひとりの力を生かしながら食事作りを利用者と共にしている。畑で収穫した野菜を使ったメニューや近所のおすそ分けの野菜などを食事の話題にしたり、楽しい食事の雰囲気作りが心がけている。	○	すでに外で豚汁会、焼き芋大会、お茶会を実施、今年はバーベキューや鍋などもやりたい。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙、飲酒については希望者がいないため主だった取り組みはしていない。日によっておやつのおオーダーをとり、一人ひとり飲みたいものの希望を聞いている。	○	外食時、時間と予算の関係上、単品注文になってしまうが、もっと利用者が選択できるようにメニューに幅をもたせたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁があってもすぐにリハパンにせず、カンファレンスで話し合い、トイレ誘導や布製失禁パンツの利用で段階をふみ対応している。リハパンの使用になっても経過をチェックしこまめな話し合いの元に柔軟に対応している（夏冬、昼夜で布パン～リハパン）		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には曜日指定で行っている。入浴の声かけやタイミングはスタッフが連携して利用者によりよく入ってもらうように配慮している。また、介助者が異性の場合は入る前に一言添えている。	○	夏の厚い間はシャワー浴で対応している。利用者から意見や希望を聞き、もっと入浴を楽しんでもらえるように工夫したい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩や体を使うレクリエーションなどで過ごしてもらい、昼寝時は体を休める、居室で居れない利用者には個別対応で外出・買物・散歩など。夕方は食事前のストレッチや誤嚥防止体操などメリハリのある一日の流れを作っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫、料理など利用者の方の得意分野を生かしてそれぞれリーダーになってもらう。個々のスタッフの持つ特技をいかしたレクを行ったり、日常会話で外食の希望があれば出来る限り希望に添うようにしている。スタッフの手が回らないところを家族やボランティアさんがカバーしてくれる。		

グループホームコスモスさいなみ・2階

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、「こづかい」としてお金を預かり、「小遣い帳」として出納管理している。トラブルを避けるために職員管理しているが、買いたい物や美容院への外出、外来受診の診療費などは、職員も同行するが、できるだけレジでの支払いもしてもらうようにしている。	○	個別の買物が以前より減ってきているので、検討したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や、利用者の気分、体調に応じて戸外で気持ちよくいきいきと過ごしてもらえるよう、散歩、外出（外食）外でティータイム、夕涼み等を行っている。外出は皆さん楽しみにしており、気分転換やストレス発散の良い機会になっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族が都合悪く来れない利用者とお盆の墓参りに同行したり、故郷へのドライブ。お茶の時間や日常生活の中で話題になった場所や希望などは後日計画を立てて行ける様に心がけている。（遠方の場合は母の日や敬老会など行事に組み込んでいる）	○	カラオケやふるさと巡り（遠方の利用者）等も視野に入れていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は、家族や友人に向けて毎年利用者が書いている。また、絵手紙教室を開催し、お便りを書いてもらっている。家族や友人からの電話の取次ぎや手紙などの取次ぎなども支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間はもうけておらず、家族や友人の都合の良い時間に来所してもらえるように配慮している。利用者や家族が気安く話ができるようにフロアー、居室内どこでも自由にお茶など提供しながらゆっくり話してもらっている。希望があれば食事を一緒に食べてもらうこともできる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことをスタッフ全員で意識し、確認しあっている。	○	ケア会議の都度検討もしている。直接的でない拘束もあることを認識し確認し合っている。

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>夜間帯のスタッフ一人のため不安な部分もあるが、日勤帯からの申し送りの徹底により安全確認している。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>「ひやりはっと」の記録、検証をし、再発防止の方法をミーティングで話し合い取り組んでいる。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

グループホームコスモスさいなみ・2階


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者の状態を知っていただくために毎月「生活記録」を家族宛に発送し現状を理解していただいている。緊急時は電話などで知らせている。家族会などで、活動に伴うリスクと自立についての話し合いをし理解してもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を職員が把握し、少しでも変化が見られたときはバイタルチェックを行い記録し、状況により訪看に連絡し受診の対応をしている。体調の変化などを報告しあい、申し送り簿、ケア記録などで共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを個別に管理し、職員が内容をできるようにしている。服薬時は本人に手渡しし、きちんと服薬できているか確認している。薬の処方が変わった時も申し送りを徹底し、連携を密にしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や野菜を多くメニューの中に取り入れている。レクなどで便秘による体調不良の話などから利用者に自覚を促し水分補給、腹部マッサージをしてもらう。利用者により「排便管理表」によるチェックで定期的なトイレ誘導で排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	提携歯科医による「口腔ケア学習会」を開催、スタッフ全員が口腔ケアの重要性を認識している。利用者の口腔状態や力量に応じて見守りや介助などしている。就寝前に義歯、コップ、歯ブラシを預かり、洗浄、消毒している。	○	歯周病のある利用者が多く、ブラッシングの指導を歯科医から受け、毎食後に介助にて歯茎のブラッシングを実施している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時、お茶時は常に声がけで一定量の水分を確保してもらうようにしている。暑い時期はフロアにクーラーボックスに冷麦茶を用意して自由に飲んでもらう。水分の必要性も常にアピールしている。		

グループホームコスモスさいなみ・2階

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関する新しい情報などはその都度回覧し早期対応できるように努めている。利用者の外出の際は、戻ったら必ずインソジンでうがいと手洗いを実施している。インフルエンザの予防接種を徹底している。	○	専門家によるホーム内での勉強会を実施していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・購入した食材は日付を記入して調理担当が使いやすいようにしており、賞味期限にも注意している。まな板、布巾の衛生もチェック表をつくり管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の広場には植え込みや花のプランターがあり、ベンチが置いてあって、天気の良い日はお茶など飲めるような環境になっている。夏季は玄関の扉も開放して風が通りやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアや廊下などに季節の花を常に飾っており、季節に合わせた雛飾り、菖蒲湯、七夕、お月見などの演出をして季節感を感じてもらっている。また、行事や外出時に撮影した写真を引き伸ばして掲示し、利用者に話題提供している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアは直線的な作りだが、ベンチをところどころに置き、利用者同士の交流の場所としている。		

グループホームコスモスさいなみ・2階

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者の馴染みの物の効果を説明しタンスや椅子、配偶者や家族の写真、小物など持参されている方が多い。また、途中からほしいものなどがあれば、家族にお願いしている。居室ごとにボードを設置し、好きなものを掲示して楽しんでもらっている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温が快適なときは窓を開けて外気を入れるようにしている。フローアのところどころに温湿度計を設置して、利用者の体調を見ながら冷暖房の調整をしている。夜間の居室の窓の開閉も見守りをこまめに行っている。	○	冬期はフロアや居室の乾燥を防ぐために洗濯物を干したり、居室に簡易加湿装置を設置し、風邪の予防に努めている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カンパレンス以外でもスタッフ同士が利用者の状態を話し合い、その都度ベッドの位置、ベッド柵やトイレの可動バーなどを見直している。利用者の目につきやすい場所に水くれのバケツや物干しを置き自主性や自立を意識した環境を作っている。また、安全のため職員が注意を払い黙視している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事作り、裁縫など利用者個々がわかること得意なことを個別対応でやってもらっている。また、声かけ、アプローチの仕方により混乱や失敗を防げるよう気配りをしている。混乱をさけるため、家族の協力をもらい手紙を書いたり定期的な電話してもらったりしている。		
87 ○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターへの花植えは近所の小学生が育てた花苗をもらって一緒に植え、地域交流にもつなげている。畑の利用により、利用者の季節感・自主性をうながしている。玄関先のベンチでは涼んだりお茶を飲める空間作りをしている。2階なのでベランダにもくつろげる空間を作っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グループホームこすもすさいなみ・2階

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・ 沢山のボランティアさんに定期的に来所してもらっている。歌や紙芝居のボランティア、民話の語りボランティア、花卉栽培の農家の人が生産している花を材料にアレンジフラワーを教えてくれる。美容師さんが月に一回来所して、利用者全員にメイクしてくれる。日本舞踊の本格的な踊りをコミカルにアレンジして楽しく見せてくれる。これらのボランティアは職員がボランティア市場で声を掛けてきっかけを作り定期訪問してくれるようになったボランティアさんで、そのたび利用者と昼食を食べ、対話交流して、次回の機会へと継続している。

・ 地域交流で、世代間の交流が活発です。地域の小学校の4年生と6年生のクラスと交流、月1回訪問してくれ、会話やゲームをして交流している。保育園には2ヶ月に一度訪問して3歳児、4歳児と楽しい時間を過ごしている。地域の専門学校生が大勢で来所してアロマセラピーのハンドマッサージをしてくれます。学生は元気な利用者にびっくりしていました。一緒に歌を歌って全員が若返った気分を味わえました。

・ ボランティアのつながりから、絵手紙教室や、福祉専門学校の生徒さん、障害者のグループホームの入居者との交流など、人と人とのふれあいを大事にしてきたので、つながりから広がっていく交流が2階のユニットの大きな財産です。ボランティアさんも「ここに来て皆さんの元気な顔を見るのが楽しみ」と言ってくれます。

・ 利用者の方で古タオル、古シーツを使って雑巾縫いをしています。沢山の雑巾は福祉施設に寄付して喜ばれ、交流している学校や保育園にお土産として持参して喜ばれています。利用者から直接渡してもらい、喜ばれる張り合いを持ってもらっています。古タオル、古シーツは家族の協力で集まっています。